オーディオ実験室収載

FIDATA HFAS1-S10 の活用(4)
—JBL4350A における試聴—

１．はじめに

FIDATA HFAS1-S10 の導入シリーズと活用シリーズの前報(3)までは、すべて FAL C90EXW による試聴でした。今回からスピーカーを替えて HFAS1-S10 からの再生ぶりを確認していきたいと思います。まず手始めに JBL4350A における再生を行います。

２．試聴条件

再生ルートは次のようになります。JBL4350A にスーパーツイーターとして Enigma の Sopranino を FAL C90EXW から移動し、さらにムラタ ES-105 をパラに接続しています。

入力系

HFAS1-S10→iPurifier2→micro iDSD →TASCAM DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD

駆動系

P&G フェーダー→Accuphase F-15→3 チャンネル毎駆動アンプ
→JBL4350A＋Enigma Sopranino+ムラタ ES-105

ダブルウーファー駆動：Heath Kit W-6M KT88pp

ミッドバス～ツイーター駆動：芦屋ベルステレオオリジナル 45pp

スーパーツイーター駆動：Pilotone 6V6pp

音源は前報(1)から前報(3)で録音した最新のものと以前にダウンロードした 11.2MHz DSD 音源を使用しました。

３．試聴結果

前報(1)から前報(3)で録音した最新音源に関しては、FAL C90EXW と JBL4350A の音の特性の違いはありますが、前報(1)から前報(3)の結果を踏襲したかたちになりました。即ち、録音と再生におけるこれまでの種々の対策と HFAS1-S10 が相まって、随分と JBL4350A の音も変ったという印象です。FAL C90EXW に比べると、弦に硬質感が残りますが、パーカーションや低音楽器、フルオーケストラの迫力は FAL C90EXW を凌ぐところがあります。JBL4350A の再生は時としてやかましさを感じますが、HFAS1-S10 からの再生では、その静寂感がマイナス面を払拭してくれます。特に、11.2MHz DSD 音源になると、音源自体のクオリティに助けられて、JBL4350A

のクラシック再生におけるマイナス面が隠され、JBL4350A にこんな一面があったのかという印象を持たせてくれます。

３．まとめ

HFAS1-S10 からの再生は、FAL C90EXW と同様、その静寂感が JBL4350A のクラシック再生におけるマイナス面を払拭してくれ、特に DSD 音源の再生が好ましく感じられます。

以上